



書
評

頭蓋顎顔面外科 術式選択とその実際

上石 弘（著） NPO 法人クラニオフェイシャルセンター理事長

A4 頁 208 2008 年 定価 18,900 円（本体 18,000 円＋税 5%）
[ISBN978-4-260-00602-6] 医学書院刊

＜書評者＞ 鳥飼勝行（横浜市立大学教授・形成外科）

頭蓋顎顔面外科のバイブル

本書は、日本における craniofacial surgery のパイオニアであり、口蓋形成術の上石法で知られる著者による頭蓋顎顔面外科のテキストである。本書の構成は『先天異常』『発育異常』『外傷』『腫瘍』『美容外科』の 5 章から成る。本書では、医師と歯科医師のダブルライセンスをもつ著者の秘伝を含めた、頭蓋顎顔面外科の全範囲を、かゆいところに手が届いていないさと、著者独特の明快かつシャープな講義をもって学ぶことができる。

著者は横浜市立大学および北里大学を通じての私の師であり、長年にわたり暖かいご指導をいただいていた。よく学会発表の結びなどで『今後さらに研究を重ねて…』とか『今後の研究が待たれるところである…』などのフレーズを耳にすることがあるが、そんなときに著者はよく『そんなことはこの場で聞きたくないよ』とおっしゃっていた。妥協を許さず、その場その場で最高の結果を出すよう全力を尽くされる著者らしいお

言葉である。

本書では、著者が妥協を許さず、出し惜しみせず、限られたスペースの中で頭蓋顎顔面外科の全範囲にわたり講義してくださっている。初学者が知っておくべき基本から、口伝として今までなかなか活字にならなかった手術のコツまで本書で学ぶことができる。例えば、本書のコラムにある、『形成外科にはレーゲル（決まり）がない—頭蓋顎顔面外科ではアイデアが重要』や、『仕事は段取り八分、見て覚えるもの』『松竹梅—術式は 3 つの選択肢から選べ』などは、この部分を読んでいるだけでも面白い。私にとっては著者の教えが凝縮しよみがえってくるが、読者の方々にとっても、本書を通読した後にもう一度コラムを読んでみるとさらに味わい深くなるのではないかと思う。

本書はまさに、これから頭蓋顎顔面外科を学ぼうとする者、また既に実践している専門医らにとって必携のバイブルといえる。